

水稲省力化に向けた新技術導入の検証実施（世羅町）

【平成31年2月19日掲載】

世羅町の（農）さわやか田打（組合員 58 名，代表理事：岡田以得（おかだ いとく））は，地域ぐるみ型の集落法人として平成 11 年にスタートしましたが，構成員の高齢化等を背景に，現在は 30 代の従業員 2 名が中心となり基幹作業を実施する担い手型法人の形態へと移行しています。

限られた人数・労力で適期作業を行い収益性の高い稲作経営を行っていくために同法人では平成 29 年産から密播栽培を約 20ha で導入していますが，さらなる省力化・春作業の軽労化を目的として，平成 30 年から 3 カ年計画で各種直播栽培を試行導入し，検証に取り組んでいます。

平成 30 年産で取り組んだ折衷直播は，(株)中四国クボタで考案された全国的にも取組事例がほとんどない新技術で，乾田状態で鉄コーティング種子を播種後，直ちに湛水するといった乾田直播と鉄コーティング直播の折衷的な栽培体系の技術です。

今回の検証は飼料用米品種の「夢あおば」で行いましたが，デモ機の都合で播種時期が 5 月下旬となり，出穂遅延による登熟不良が発生しました。単収は 445kg/10a に終わりましたが，登熟次第では，700kg/10a 以上が期待できる生育を示し，乾田状態での播種や苗運びなどの補助者を必要としない作業性の良さに法人側も大きな期待感を寄せています。

将来的な基幹作業従事者の減少への懸念等を背景に，水稲直播栽培への注目・期待が高まってきています。平成 31 年産では，当該法人を含む複数の経営体での試行導入が計画されており，指導所では関係機関と連携して，3 月には，「べんもり直播」研修会の開催を始め，直播栽培の安定生産技術確立支援に取り組むこととしています。



図 乾田状態で播種作業を行う折衷直播
(鉄コーティング種子を播種後，直ちに入水)